

## ◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	文学研究科 史学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

## ① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

大学の教育目標を踏まえ、文学研究科史学専攻では、教育目標を以下のように設定している。  
日本史、東洋史、西洋史の3つの研究分野を設け、固有の諸問題の究明に当たる。また京都という恵まれた歴史的空間を活用して研究の深化を図り、3研究分野間の相互交流や比較の観点に立つ研究を行うことで、複眼的かつグローバルな視野を持ち、十分な研究能力を持った人材を育成する。学位取得後には、教育・研究職や文化関連業種といった、歴史についての専門性を生かした分野で活躍できることを目指す。  
この教育目標は、大学の教育目標から導かれ展開する構成となっており、その連関性は保たれている。以上により、現時点で変更の必要性は生じていない。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

文学研究科史学専攻の教育目標は「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1「教育目標」に明示されている。教職員および学生に対しては、文学研究科委員会や履修ガイダンス等において周知されている。社会に対しては、大学ウェブサイトの大学院史学専攻や大学院入試の項目で広く公表している。その証拠に、毎年、安定した大学院入学者数を確保している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

**③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b> 個別の視点での入力不要
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b> <b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b>
<b>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b> <b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)**

<b>一般的なコメント(総評)</b> 目標が具体的に設定されており、達成のための施策が行われていることは評価できます。
<b>改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)</b>

**内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見**

<b>意見</b>
-----------

## ◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	文学研究科 史学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

## ① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

文学研究科史学専攻の学位授与の方針は、「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表2「学位授与の方針」に定められている。「学位授与の方針」には課程修了にあたって習得しておくべき能力を、[知識・理解][汎用的技能][思考・判断][対話・相互理解][社会性・自律性][自立性]の観点から具体的に明示している。また、「学位授与の方針」や大学ウェブサイトにおいて広く公表している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

文学研究科史学専攻では、「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表3において、「教育課程編成・実施の方針」を定めている。「教育課程編成・実施の方針」では「学位授与の方針」との関連性を踏まえ、博士前期課程、後期課程それぞれの編成内容を示している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

文学研究科史学専攻では、幅広い視野の涵養と歴史全般にわたる知識の獲得を可能にし、専門分野に関する高度な研究能力を育成するために、演習(論文指導)及び講義科目を体系的に編成している。複眼的な視点を養うために、日本史、東洋史、西洋史の各専門分野を越えて受講することもできる。また学生は指導教員の個別指導を受けつつ、自分の設定した研究課題の分析・考察を行い、史料に基づく新知見を加えた歴史研究の成果を修士の学位論文として作成し、創造的かつ批判的な能力の確立を目指す。

博士後期課程では、前期課程で修めた研究成果を継承・発展させ、より一層の専門性の深化を図っている。特に本学所蔵の、多くの貴重な資料や文献を有効に活用して視野の拡大、高度化、学際化等につとめる一方、研究職やこれに準ずる高度な専門業務に従事するために必要な研究能力と豊かな学識を育成している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

<p><b>【課題および改善方策】</b>…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策】</b>…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】</b>…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】</b>…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

**④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。**

<p><b>【現状説明】必ず記入</b>…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 文学研究科史学専攻では、個別指導に重点が置かれている。博士前期課程では、指導教員による演習科目が複数設定され、2年間入念な指導の下で修士論文を執筆できるように配慮している。博士後期課程では、特殊研究に加えて「研究指導」を導入し、より緻密に学術論文を執筆できる体制を整えている。加えて、卒業論文報告会や修士論文中間発表、大学院研究会などの研究集会の開催によって、自身の到達度を客観的に知る場も設けている。いずれの課程も、年度初めに研究計画を策定した上で、研究を進めている。 なお大学院生には、ティーチングアシスタントとして授業の準備や下級生の指導補助を行うことで、自らの学習到達度の確認と指導スキルの向上を図る制度があり、効果を上げている。</p>
<p><b>【点検・評価】必ず記入</b>…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</p>
<p><b>【成果および伸長方策】</b>…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。</p>
<p><b>【課題および改善方策】</b>…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 大学院生をポートフォリオに登録するシステムを構築し、一層きめ細かな指導ができるようにする必要がある。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策】</b>…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】</b>…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】</b>…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

**⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。**

<p><b>【現状説明】必ず記入</b>…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 シラバスにおいて「評価項目」「配分%」「評価の視点」などの評価基準を明らかにし、厳格な成績評価を実施している。提出された各学生の成績は、教務課・教務委員会によって点検・確認され、適切な単位認定が行われている。 また、学生に通知された成績について疑義がある場合の問い合わせ期間を設け、成績評価が適切に行われるよう取り組んでいる。 学位授与に関わる基準は「大学院要覧」や本学ウェブサイトにて明記されており、文学研究科委員会においてこれに基づき審議する。同会は審議結果を意見として学長に伝え、最終的に学長が学位授与の決定手続きを行っている。</p>
<p><b>【点検・評価】必ず記入</b>…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</p>
<p><b>【成果および伸長方策】</b>…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。</p>
<p><b>【課題および改善方策】</b>…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策】</b>…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】</b>…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】</b>…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

**⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。**

**【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。**

学位授与については、「京都女子大学大学院学則」に則って、研究科委員会の議を経て厳正に行われている。修士2回生の秋には大学院行事として中間発表会が開催され、成果把握の場となっている。それを踏まえた上で1月に修士論文が提出され、2月に口頭試問が行われるという、二段階を経ている。博士後期課程における博士の学位授与については、より厳正さを担保する措置が様々に取られている。まず、12月初旬の正規の提出締切日に先駆けて、9月の所定期日には所定の出願書類を作成して提出することが必要であり、明確な準備期間を持って作成されたものであること、投稿論文の規定を満たしているかを確認する。提出後の審査は、主査と副査を二名定めて、公開形式で1月後半に十分な時間をかけて実施している。以上の方策を通じて、学習成果を適切に把握している。

ただし、学部学生と異なり、学修ポートフォリオの導入が進んでいないことは、学習成果把握のために問題である。

**【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。**

**【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。**

特筆すべき事項なし。

**【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。**

学修ポートフォリオの導入を進める。

**【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。**

**【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。**

**【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。**

**⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

**【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。**

史学専攻の会議では、教育内容、教育方法の適切性について積極的な意見交換が行われている。それに加えて、史学科選出のFD推進委員が、史学専攻のFD推進も担当し、学科会議後の教育改善会議において、上記適切性について検証を行っている。

また、大学院生アンケートの結果を通じて、教育課程の内容および方法の適切性について点検・評価を行っている。ここからは、大学院生が教育に関する質問項目に対しての不満をほとんど持っていないことが読み取ることができる。

**【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。**

**【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。**

特記事項なし。

**【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。**

特記事項なし。

**【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。**

**【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。**

**【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。**

**内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)**

**一般的なコメント(総評)**

目標が具体的に設定されており、適切な対応がなされていると評価できます。

**改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)**

**内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見**

**意見**

## ◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	文学研究科 史学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

## ① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」の別表4「入学者受け入れの方針」において、求める学生像や修得しておくべき知識等を具体的に明示し、その内容は博士前期課程、後期課程ともに大学ウェブサイトや募集要項で広く社会に公表している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

毎年、学生募集要項を確定して以降、全学における入学選抜方法の統一的なスケジュールと方法に則って、公正かつ適切に学生募集および、秋と春の入学者選抜を行っている。

現在は、博士前期課程については9月末から10月半ばの時期に行う秋季入試と、2月中旬から下旬に行う春季入試の二回を、博士後期課程については春季入試の一回を実施している。博士前期課程の入学者は毎年定員を超える勢いである。博士後期課程の受験者は年度によって変動するが、それでも毎年度必ず一人以上の受験者を確保している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

博士前期課程では、毎年度ほぼ定員を満たしている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

※個別の視点での記入は不要です。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

【課題および改善方針】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方針】…実行可能な方針が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方針(伸長方針)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方針を記入。
【将来に向けた発展方針(改善方針)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方針を記入。

**④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 京都女子大学大学院の入学者選抜制度およびその運用の適切性については、入試制度委員会を中心にその点検・改善を行っている。 また、毎年、入試実施の前に行う、史学専攻の会議において、本年度の出願者、監督者、面接担当者等を入念に決めるとともに、問題形式に変更を加えるかも検討した上で、問題の作成にあたっている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方針】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方針】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方針】…実行可能な方針が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方針(伸長方針)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方針を記入。
【将来に向けた発展方針(改善方針)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方針を記入。

**内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)**

一般的なコメント(総評)
問題点が的確に認識されて、改善に向けて適切な対応がなされていると評価できます。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

**内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見**

意見

## ◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	文学研究科 史学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

## ① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

他者と創造的に協働できるグローバルな人材の育成を目指す史学科では、「日本史」「東洋史」「西洋史」の三つの研究分野の動き、および学生のコース選択の動向などを検討し、必要な人数の専門家の確保を基本としている。どの分野においても、古代から近現代まで偏りなく教員が配置されており、学生のニーズに対応している。合計12名の教員の専門領域などは「大学案内」や大学ウェブサイト公表され、オープンキャンパス等でも周知されている。ただし、このような基本的編制方針は、専攻構成員全員の基本共通理解となつてはいるものの、明示的に定められてはいない。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

教員組織の基本的編成方針について、明文化する。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

## ② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

史学専攻の理念・目的・教育目標によって、高度な専門業務に必要な研究能力と豊かな専門知識・教養を身につけ、学問の高度化・社会的要請に応える研究者、新しい時代的要求に応える職業人を育成すべく、専門的な研究領域において学際的発言をできる人材を中心に、教員組織の整備を進めている。教員の内訳は、「日本史6名、東洋史3名、西洋史3名」であり、日本史と世界史(東洋史・西洋史)が6名ずつとなっている。修士課程の授業は特論と演習から構成されるが、演習は全て専任教員が担当している。特論については、専任教員がカバーできない一部領域のみを非常勤講師が担当している。

なお、年齢構成は70代1名、60代2名、50代5名、40代4名で、教授9名、准教授3名となっている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

**③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b> 現状における教員の募集・採用・昇格は、「京都女子大学教員資格審査規程」の定めに従って、適切に実施されている。新規採用人事については、まず新 任人事で採用の決定した教員(あるいはその予定者)について、大学院担当の可否を、史学専攻より選出された教授3名と文学研究科の他専攻より選出された 教授2名によって構成された選考委員会が、研究科委員会の議を経て決定する。研究科委員会の承認には、無記名投票による出席者の三分の二以上の賛成 が必要である。その後、任用者の裁可を経て、正式に決定する。昇任人事についても、同様である。
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b>
<b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b> 特筆すべき事項なし。
<b>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b> 特筆すべき事項なし。
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b> 史学科選出のFD推進委員が、史学専攻のFD推進も兼ねて、活動を行っている。学科会議の終了後に、教員の資質改善のためのFD会議をほぼ毎月開催し ている。各教員が自身の指導する大学院生から聴取した意見を基に、こうした会議で改善策を議論している。なお、大学院生に対しては、学部生とは別のアン ケートが全学で行われているが、それについて専攻内で本格的な分析は行っていない。 教員の教育研究活動については、全教員が教員業績データベースへの入力を行っている。学科発行の『大学紀要』への投稿を専攻会議において推奨して おり、実際、全教員が定期的に投稿している。2016年度からは「京都女子大学教員業績評価に関する規程」に基づき、前年度業績の評価を行い、学部長・学 長による評価を受けて改善活動等に取り組んでいる。
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b>
<b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b> 特筆すべき事項なし。
<b>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</b> 大学院生に対しては、学部生とは別のアンケートが全学で行われているが、それについて専攻内で本格的な分析は行っていない。
<b>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</b>
<b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</b>

**⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

<b>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</b> 史学専攻では、毎年度実施する自己点検・評価のほか、カリキュラム検討等に合わせて教員組織の適切性について点検・評価を行っている。史学専攻で は、教員の内訳を、長く伝統であった「日本史5名、東洋史4名、西洋史3名」から「日本史6名、東洋史3名、西洋史3名」に変更してから数年が経過している。こ の変更の結果について毎年点検し、日本史と世界史(東洋史・西洋史)とのバランスが取れ、よりきめ細かな教育が可能な研究組織となったこと、入学学生の志 望に合わせた編制として定着してきたことを確認している。
<b>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</b>
<b>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</b> 特筆すべき事項なし。

<p><b>【課題および改善方策】</b>…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策】</b>…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】</b>…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p><b>【将来に向けた発展方策(改善方策)】</b>…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

**内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)**

<p><b>一般的なコメント(総評)</b></p> <p>目標が具体的に設定されており、特にFD活動に関して適切な対応がなされていると評価できます。 ④について、【課題および改善方策】今後はアンケートについて適切に対応することが求められます。</p>
<p><b>改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)</b></p>

**内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見**

<p><b>意見</b></p>
------------------